

第3章 本県農工商教育を取り巻く新たな課題

現在、我が国は人口減少・少子高齢化という課題に直面するとともに、Society5.0の到来やSDGsの達成が期待されるなど、これまでの常識が通用しない未知の世界が眼前に広がる時代を迎えている。そうした中、今後の社会の変化を見据え、本県農工商教育の現状から、次の4点を新たな課題とする。

1 人口減少・少子高齢化に伴う地域経済の縮小及び地域産業の担い手不足への対応

本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2030年に約65万人、2045年には約54万人にまで減少すると予測されている。

年少人口と生産年齢人口は減少の一途をたどり、こうした人口減少は、地方経済に、消費市場の規模縮小だけでなく、深刻な人手不足を生み出しており、それ故に事業の縮小を迫られるような状況も広範に生じつつある。

また、グローバル化・ボーダレス化の進展に伴い、世界規模で競争が激化する中、本県では、県内産業の競争力強化や、海外での販路拡大、インバウンド誘客を積極的に進めており、変化の激しい世界の経済情勢を捉えながら、国際的な視野で地域産業の未来を担う人材育成が求められている。

2 5Gで加速する第4次産業革命がもたらすSociety5.0を生き抜くために必要な学び

近年、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等の先端技術がけん引する第4次産業革命が急速に進んでおり、5Gの導入によって、さらに進展すると考えられる。我が国では、そうした先端技術があらゆる産業や社会生活に大きな変化をもたらし、経済発展と同時に、様々な社会的課題の解決が図られ、誰もが質の高い生活を享受できる未来社会Society5.0の実現を目指すこととしている。本県においては、全国屈指の光ブロードバンド環境と今後整備される5Gにより、社会のあらゆる分野において、先端技術の社会実装を加速させ、地域が直面する諸課題を解決する、徳島ならではの*超スマート社会を具現化する取組を展開していくことが期待される。

このような社会を生き抜くために必要とされる、資質・能力の育成につながる学びを実現することが求められている。

3 SDGsの達成に貢献する、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進

ESDとは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を実現していくことを目指す教育である。

教育はSDGsの目標4に位置付けられているが、教育がすべてのSDGsの基礎であり、すべてのSDGsが教育に期待しているといわれている。ESDをより一層推進することが、すべての目標の達成に貢献するものである。

また、今後30年以内に南海トラフ巨大地震が70から80%の確率で発生することが予測されるなど、本県における自然災害の危険性も高まってきており、持続可能な社会を実現するためには、防災の観点からの農工商教育の更なる充実も求められている。

4 小・中学生の農工商教育を行っている高校への進学希望を増やすための取組

農業科，工業科，商業科においては，第2章にあるような徳島県農工商教育活性化方針に基づいた特色ある取組を行い，関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み，社会や産業を支える人材を育成してきた。水産科では，徳島科学技術高校において，地域の水産業の発展に貢献する人材を育成するため，大学や産業界，漁業者と積極的に連携し，地域の水産業・海洋関連産業の振興に取り組んできた。しかし，そうした取組を行う各高校の魅力が小・中学生や保護者，中学校教員等に十分に伝わっていない状況にあると考えられる。このことから，農工商教育を行っている高校に対する小・中学生や保護者，中学校教員等の理解・関心を高める取組が必要である。